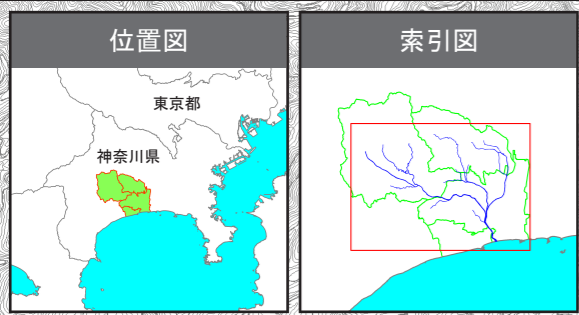


金目川水系洪水浸水想定区域図（計画規模：確率規模1/100）



凡例

浸水した場合に想定される水深（ランク別）

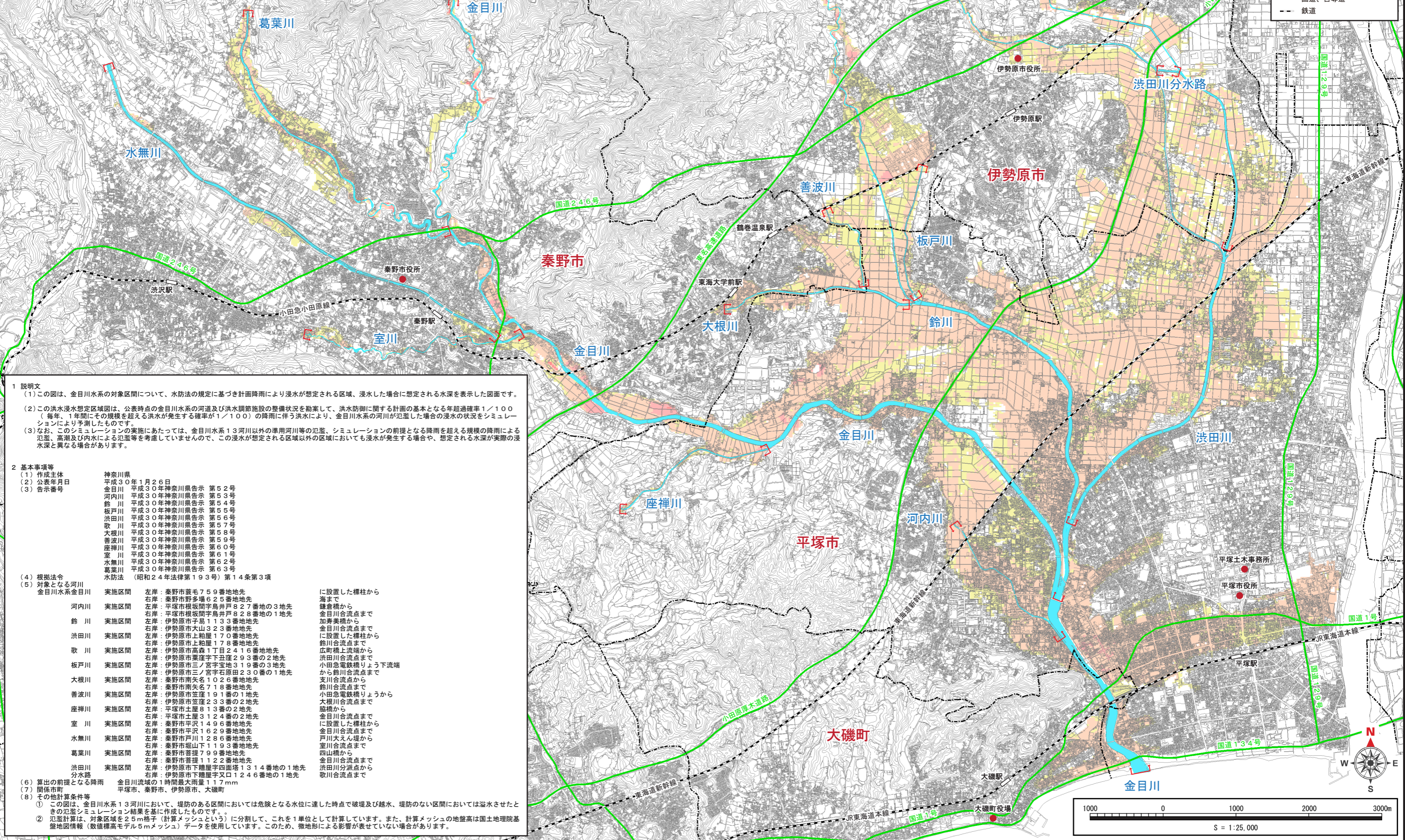
- 0.0~0.5m未満の区域
- 0.5~3.0m未満の区域
- 3.0~5.0m未満の区域
- 5.0~10.0m未満の区域

洪水浸水想定区域の指定の対象となる河川

市区町村界

国道、自動車道

鉄道



1 説明文

(1) この図は、金目川水系の対象区間について、水防法の規定に基づき計画降雨により浸水が想定される区域、浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。

(2) この洪水浸水想定区域図は、公表時点の金目川水系の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、洪水防御に関する計画の基本となる年超過確率1/100（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/100）の降雨に伴う洪水により、金目川水系の河川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。

(3) なお、このシミュレーションの実施にあたっては、金目川水系13河川以外の準用河川等の氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この浸水が想定される区域以外の区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

2 基本事項等

(1) 作成主体
 (2) 公表年月日
 (3) 告示番号

神奈川県 平成30年1月26日
 金目川 平成30年神奈川県告示第52号
 河内川 平成30年神奈川県告示第53号
 鈴川 平成30年神奈川県告示第54号
 板戸川 平成30年神奈川県告示第55号
 洪田川 平成30年神奈川県告示第56号
 歌川 平成30年神奈川県告示第57号
 大根川 平成30年神奈川県告示第58号
 善波川 平成30年神奈川県告示第59号
 座禅川 平成30年神奈川県告示第60号
 室川 平成30年神奈川県告示第61号
 水無川 平成30年神奈川県告示第62号
 葛葉川 平成30年神奈川県告示第63号

(4) 根拠法令
 (5) 対象となる河川

| 河川 | 実施区間 | 左岸 | 右岸 |
|-----|-----------------------|----------------------|-----------------------|
| 金目川 | 秦野市糞毛759番地地先 | 秦野市野多場625番地地先 | に設置した欄柱から海まで |
| 河内川 | 平塚市根坂間字鳥井戸827番地の3地先 | 平塚市根坂間字鳥井戸828番地の1地先 | 鎌倉橋から金目川合流点まで |
| 鈴川 | 伊勢原市三ノ宮1133番地地先 | 伊勢原市大山323番地地先 | 金目川合流点までに設置した欄柱から |
| 洪田川 | 伊勢原市上粕屋170番地地先 | 伊勢原市上粕屋178番地地先 | 鈴川合流点まで |
| 歌川 | 伊勢原市高森1丁目2416番地地先 | 伊勢原市栗窪字下丑窪293番の2地先 | 広町橋上流端から洪田川合流点まで |
| 板戸川 | 伊勢原市三ノ宮字宝地319番の3地先 | 伊勢原市三ノ宮字石原田230番の1地先 | 小田急電鉄橋りょう下流端から鈴川合流点まで |
| 大根川 | 秦野市南矢名1026番地地先 | 秦野市南矢名718番地地先 | 支川合流点から鈴川合流点まで |
| 善波川 | 伊勢原市笠達191番の1地先 | 伊勢原市笠達233番の2地先 | 小田急電鉄橋りょうから大根川合流点まで |
| 座禅川 | 平塚市土屋813番の2地先 | 平塚市土屋3124番の2地先 | 座禅橋から金目川合流点まで |
| 室川 | 秦野市平沢1496番地地先 | 秦野市平沢1629番地地先 | に設置した欄柱から金目川合流点まで |
| 水無川 | 秦野市平沢1629番地地先 | 秦野市平沢1289番地地先 | 戸川合流点から室川合流点まで |
| 葛葉川 | 秦野市菅提799番地地先 | 秦野市菅提1122番地地先 | 四山橋から金目川合流点まで |
| 洪田川 | 伊勢原市下糟屋字四間塔1314番地の1地先 | 伊勢原市下糟屋字又口1246番地の1地先 | 金目川合流点から歌川合流点まで |

(6) 算出の前提となる降雨 金目川流域の1時間最大雨量117mm
 (7) 関係市町 平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町
 (8) その他計算条件等

① この図は、金目川水系13河川において、堤防のある区間においては危険となる水位に達した時点で破堤及び越水、堤防のない区間においては溢水させたときの氾濫シミュレーション結果を基に作成したものです。

② 氾濫計算は、対象区域を25m格子（計算メッシュという）に分割して、これを1単位として計算しています。また、計算メッシュの地盤高は国土地理院基礎地図情報（数値標高モデル5mメッシュ）データを使用しています。このため、微地形による影響が表せていない場合があります。

